

私は、大阪維新の会、大阪市会議員団を代表しまして、

「議案第 234 号 指定公立国際教育学校等 管理法人による大阪市立学校の管理に関する条例案及び議案第 235 号大阪市立学校設置条例の一部を改正する条例案」について、賛成の立場で討論致します。

本市会においては、新設する中高一貫教育校の学校設置条例とともに、その中高一貫教育校の管理を民間の事業者指定するための条例、いわゆる公設民営学校条例が上程されています。国家戦略特区の制度を活用し、学校全体を民間事業者管理運営させる公設民営学校を設立するのは、全国初の事例であり、民間事業者ならではの特色ある提案を期待しています。

私は、子どもたちが、将来、予想もできないことに直面しても、周囲と協力しながら最もよい答えを導き出し、困難を乗り越えるといった本当の意味での「生きぬく力」をつちかうためには、従来型の知識詰め込み型の教育ではなく、自ら課題を発見し、他の人と協力して問題を解決していくという、課題探究型の学習手法を取り入れることが必要だと考えます。

例えば、バカロレア教育は英語教育だと思っている人が非常に多いのですが、英語教育ではありません。母国語や自らの伝統文化を非常に大切に、英語はあくまでもコミュニケーションのツールの過ぎません。また、日本の学校では知識の習得を重視する時代が長らく続いていますが、バカロレアでは知識を得ることはむしろスタート地点です

例えば家に帰って家族で今の世の中の問題について話し合う、それだけでもいいわけです。とにかく何か自分にできることはないか考え、それを行動を起こしていく、行動を起こしたあと、必ず振り返りをさせます。自分がとった行動が、それが良かったのか悪かったのか、どれだけの人の役にたったのか、自分だけの自己満足に陥っていないのか どうかということを必ず振り返り、次に何か行動を起こすとしたら何をすればいいのかということを考えていく、そういうことをしているうちに、生徒たちは自分に力が無いなということに気づき、「ああもっと勉強しなきゃな」と探究に戻っていきます。その探究の学習のサイクルをととても大切に、そのような生徒たちを、育てていきます。

さらには、既存の公教育はもちろん重要ですが、既存の教育システムには馴染まない生徒たちなどの受け入れを初めとする多様な展開も、これからの時代には、特に重視すべきことではないでしょうか。

自ら課題を発見し、周りと協力しながら問題を解決していく力と知識を備え、そこから他者とそれらをシェアし、新たなる創造をもたらすための技能を養うのが、バカロレアなのです。

今や、インターネットを通じて誰でも一通りのことは検索できる時代になりました。かつては頭の中に備えることが求められた それらの知識が、これからはそれらを駆使して何の為にどう活かすか？ということが重要だと考えます。それを、目指すのが、再三申し上げているバカロレア教育というもののなのです。

このバカロレア手法をこれからの学校教育へ 採り入れることで、未知の問題に立ち向かい自ら解決策を探究することや、周りと協力しながら問題を解決していく力が、生徒の間には深くつちかわれていくことでしょう。このような魅力あふれる学校が、今こそ、この大阪には必要だと、強く確信します。

さらには、この学校では、コミュニケーションツールとしての英語教育にも力を入れるとのことです。外国人の先生方から生きた英語を学ぶことができるというのも、大きな魅力です。

委員会の中では、場所選定の話もございましたが、教育の中身が素晴らしければ、通学時間は大きな問題ではありません。重視すべきは教育の質なのです。

予定地も実際に視察してまいりましたが、現在の南港ポートタウンは緑も多く、非常に落ち着いて学習できる環境にあります。

開校まであまり期間はありませんが、この学校の素晴らしさを広く市民の皆さまに PR して頂き、ぜひとも副首都大阪として日本全国に誇れる学校としていただくことを要望して、私の賛成討論とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。